

高松商工会議所

業種別業界景気動向調査結果

平成29年度 第3四半期（平成29年10月～12月期）調査

概要

1. 調査の目的 四半期ごとに調査を行い、短期的な景気動向を把握する。
2. 調査基準日 平成29年11月15日
3. 調査対象 当所管内の中小企業等より145社を抽出。
4. 回答企業数 143社（回答率98.6%）

業種別内訳	製造業	29社	建設業	21社
	卸売業	13社	小売業	40社
	サービス業	25社	その他	15社

規模別内訳	大企業	1社	中小企業	133社
	業界団体	9団体		

*期間表記について

「今 期」：平成29年10月から12月まで

「前年同期」：平成28年10月から12月まで

「前 期」：平成29年7月から9月まで

「来 期」：平成30年1月から3月まで

*D I 値（景気動向指数）について

D I 値は、売上、採算、業況などの各項目についての判断の状況を表す指数である。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

$$D I = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

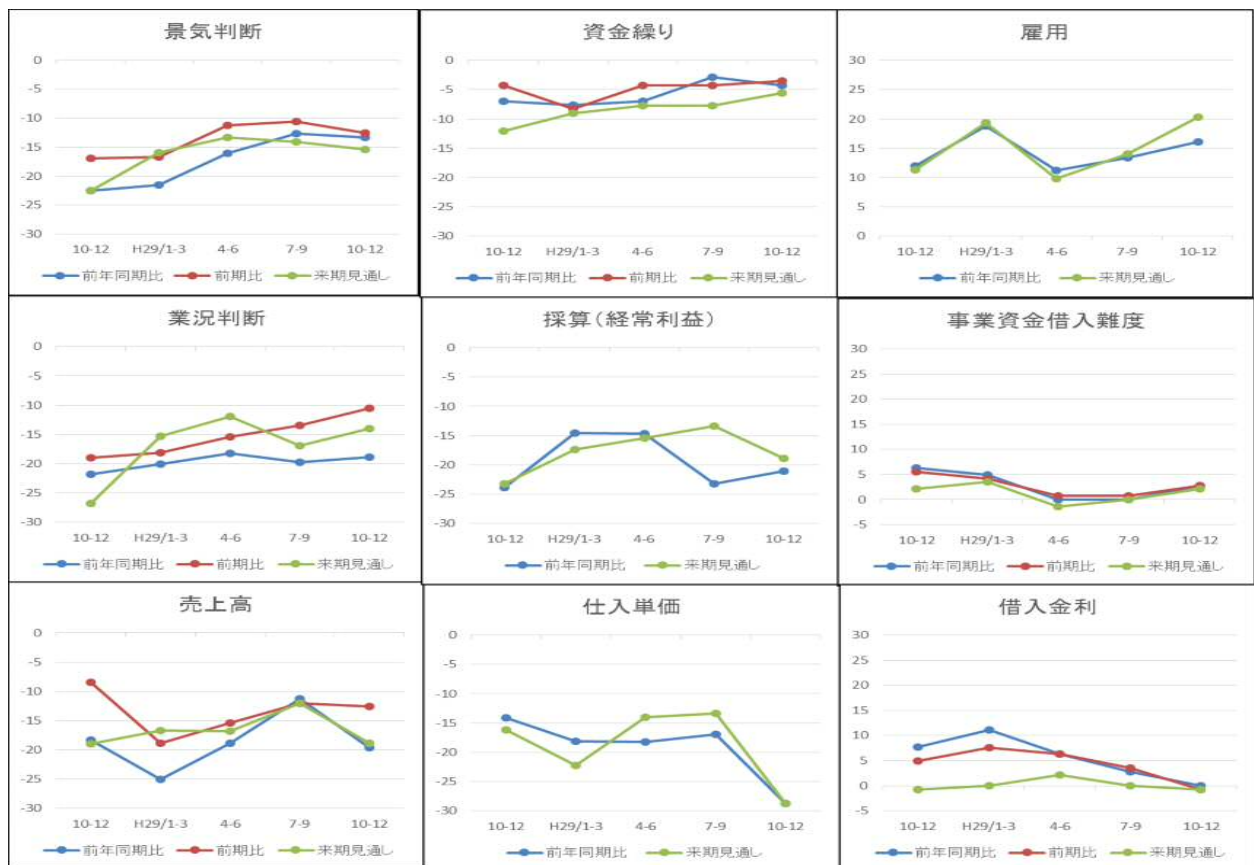
I. 概況（全業種）〈今期（平成 29 年 10 月～12 月期）の概要〉

景気判断D I は、前期比で悪化 来期も慎重な見通し

景気判断D I は前年同期比ではほぼ横ばい、前期比で悪化となった。国際線の利用は堅調であり、インバウンドをはじめとした観光需要は引き続き好調に推移した。一方、全業種（特に建設業）で長引く人手不足による受注機会の損失、求人コストならびに人件費の増加など雇用問題に加え、個人消費の冷え込みや仕入価格の上昇による利益確保難が多く見られた。

先行きについては、仕入価格の更なる上昇が予想されるだけでなく、人手不足感のますますの強まり、個人消費の回復傾向が見られない、先行き不透明感が強いなど懸念材料が多いことから慎重な見通し。

項目	前年同期比DI			前期比DI			来期(先行)見通しDI		
	比較	DI	判断	比較	DI	判断	比較	DI	判断
景気判断	↓	▲ 13.3	マイナス幅拡大	↓	▲ 12.6	マイナス幅拡大	↓	▲ 15.4	マイナス幅拡大
業況判断	↑	▲ 18.9	マイナス幅縮小	↑	▲ 10.5	マイナス幅縮小	↑	▲ 14.0	マイナス幅縮小
売上高	↓	▲ 19.6	マイナス幅拡大	↓	▲ 12.6	マイナス幅拡大	↓	▲ 18.9	マイナス幅拡大
資金繰り	↓	▲ 4.2	マイナス幅拡大	↑	▲ 3.5	マイナス幅縮小	↑	▲ 5.6	マイナス幅縮小
採算〔経常利益〕	↑	▲ 21.0	マイナス幅縮小	-	-	-	↓	▲ 18.9	マイナス幅拡大
仕入単価	↓	▲ 28.7	マイナス幅拡大	-	-	-	↓	▲ 28.7	マイナス幅拡大
雇用	↑	16.1	プラス幅拡大	-	-	-	↑	20.3	プラス幅拡大
事業資金借入難度	↑	2.8	プラス幅拡大	↑	2.8	プラス幅拡大	↑	2.1	プラス幅拡大
借入金利	↓	0.0	プラス幅縮小	↓	▲ 0.7	マイナス値に転じる	↓	▲ 0.7	マイナス値に転じる



<産業別の主な動き>

産業別に見ると、今期の前年同期比景気判断DIは、製造業、小売業、サービス業で改善、その他の3業種で悪化した。特徴的なコメントは以下の通り。

判定	↑	↗	→	↘	↓
前期との差	10.0以上	9.9~1.1	1.0~-1.0	-1.1~-9.9	-10.0以上

【製造業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入	雇用	借入難度	借入金利
↗	↑	↗	↘	↗	↓	↗	↘	→

- ・「雇用に関しては、募集をかけても人材が集まらず、新規採用が難しい。」（ガス製造）
- ・「発注も徐々に回復し、新規引合の増加傾向。さらに大口依頼もあり、キャパオーバーになる見込みがあるため、早急な増産体制が必要。」（機械器具部品）

【建築業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入	雇用	借入難度	借入金利
↓	↓	↓	↓	↓	↘	↗	↘	↘

- ・「受注は好調だが、技術者の補充が追いつかない。即戦力となる技術者がいない。」（総合工事業）
- ・「求人を出しても応募者がいない。」（地質調査）

【卸売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入	雇用	借入難度	借入金利
↘	↗	↗	↘	↗	↓	↘	↗	↘

- ・「仕入価格の上昇に伴い、粗利益の確保が困難。」（電子通信機器）
- ・「納入金額の値下げ要求が増えているため、利益の減少が見込まれる。」（生活雑貨）

【小売業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入	雇用	借入難度	借入金利
↗	→	↘	↗	↑	↘	→	→	↘

- ・「秋雨前線や台風の影響で苦戦。規模は小さいが、インバウンドによる化粧品売上は好調。」（百貨店）
- ・「求人難が売上増加を阻害している。」（電気製品）

【サービス業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入	雇用	借入難度	借入金利
↗	↘	↓	↗	↗	↘	↘	↗	↘

- ・「大型コンベンションやインバウンド観光客の増加により、宿泊は順調。酒類の10%以上の仕入価格の上昇予定のため、いかに利益を確保するかが課題となる。」（ホテル）
- ・「業界全体で雇用が難しくなっており、雇用条件・給与を考える必要がある。」（美容業）

【その他の業】

景気判断	業況判断	売上高	資金繰り	採算	仕入	雇用	借入難度	借入金利
↘	→	↓	↑	↘	→	↑	↑	↗

- ・「求人難による運転手不足に加えて、お遍路の貸切需要が激減し、売上が減少した。」（タクシー）
- ・「空港リムジンバスは特に外国人の利用が増加しているため、増便して対応している状態であるが、運転手不足が深刻な問題となっている。」（バス）

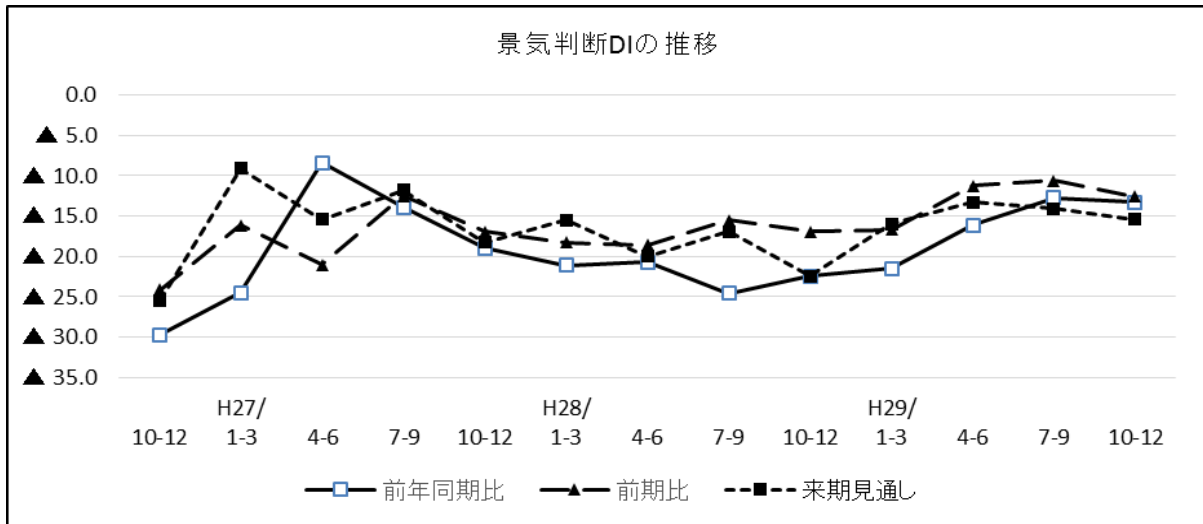
1. <管内景気動向>

景気判断 景気判断DI（「上昇した企業割合」－「下降した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の景気判断DIは、▲13.3ポイント。前回調査（▲12.7）より0.6ポイントマイナス幅が拡大した。

前期比ベースによる全業種合計の景気判断DIは、▲12.6ポイント。前回調査（▲10.6）より2.0ポイントマイナス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の景気判断DIは、▲15.4ポイント。前回調査（▲14.3）より1.1ポイントマイナス幅が拡大した。



	10-12	H27/1-3	4-6	7-9	10-12	H28/1-3	4-6	7-9	10-12	H29/1-3	4-6	7-9	10-12
全業種	前年同期比 ▲29.7 ↑	▲24.5 ↑	▲8.4 ↓	▲13.9 ↓	▲19.0 ↓	▲21.1 ↑	▲20.7 ↓	▲24.6 ↑	▲22.5 ↑	▲21.5 ↑	▲16.1 ↑	▲12.7 ↓	▲13.3 ↓
	前期比 ▲24.1 ↑	▲16.1 ↓	▲21.0 ↑	▲12.5 ↓	▲16.9 ↓	▲18.3 ↓	▲18.6 ↑	▲15.5 ↓	▲16.9 ↓	▲16.7 ↑	▲11.2 ↑	▲10.6 ↓	▲12.6 ↓
	来期見通し ▲25.5 ↑	▲9.1 ↓	▲15.4 ↑	▲11.8 ↓	▲18.3 ↓	▲15.5 ↓	▲20.0 ↑	▲16.9 ↓	▲22.5 ↑	▲16.0 ↑	▲13.3 ↓	▲14.1 ↓	▲15.4 ↓
製造業	前年同期比 ▲25.9 ↓	▲34.5 →	▲34.5 ↑	▲31.0 ↑	▲28.6 ↑	▲24.1 →	▲24.1 ↓	▲39.3 ↓	▲44.4 ↓	▲44.8 ↑	▲31.0 ↑	▲25.0 ↑	▲20.7 ↓
	前期比 ▲25.9 ↓	▲34.5 →	▲34.5 ↑	▲20.7 ↓	▲21.4 ↓	▲24.1 ↓	▲27.6 ↓	▲32.1 ↑	▲29.6 ↑	▲27.6 ↑	▲20.7 ↓	▲35.7 ↑	▲17.2 ↓
	来期見通し ▲29.6 ↑	▲13.8 ↓	▲20.7 →	▲20.7 ↓	▲39.3 ↑	▲10.3 ↓	▲13.8 ↓	▲25.0 ↓	▲25.9 ↓	▲31.0 ↑	▲10.3 ↓	▲21.4 ↓	▲27.6 ↓
建設業	前年同期比 ▲13.6 ↑	10.0 ↓	9.5 →	9.5 ↓	4.8 ↓	▲10.0 ↑	▲9.5 ↓	▲15.0 ↓	▲19.0 ↑	▲14.3 ↓	▲15.0 ↑	4.8 ↓	▲14.3 ↓
	前期比 4.5 ↑	10.0 ↓	▲14.3 →	▲14.3 →	▲14.3 ↑	▲5.0 ↓	▲9.5 ↓	▲20.0 ↑	▲19.0 ↑	▲9.5 ↓	▲25.0 ↑	▲14.3 ↓	▲19.0 ↓
	来期見通し ▲22.7 ↑	▲15.0 ↑	▲14.3 ↓	▲19.0 ↓	▲33.3 ↑	▲25.0 ↓	▲33.3 ↓	▲40.0 ↓	▲42.9 →	▲42.9 ↑	▲20.0 ↑	0.0 ↓	▲14.3 ↓
卸売業	前年同期比 ▲23.1 →	▲23.1 ↑	0.0 →	0.0 ↑	8.3 ↓	▲30.8 ↑	▲15.4 ↓	▲23.1 →	▲23.1 ↑	▲15.4 ↑	0.0 ↓	▲8.3 ↓	▲15.4 ↓
	前期比 ▲38.5 ↑	0.0 →	0.0 ↓	▲15.4 ↑	8.3 ↓	▲15.4 ↓	▲23.1 →	▲23.1 →	▲23.1 ↑	15.4 ↓	0.0 ↓	▲8.3 ↓	▲15.4 ↓
	来期見通し 0.0 ↓	▲15.4 ↑	0.0 ↑	7.7 ↑	25.0 ↓	▲15.4 ↑	0.0 ↑	7.7 ↓	▲15.4 ↑	▲7.7 ↑	0.0 ↓	▲16.7 ↑	▲15.4 ↓
小売業	前年同期比 ▲41.5 ↓	▲48.7 ↑	0.0 ↓	▲2.5 ↓	▲25.0 ↓	▲23.7 ↓	▲30.0 ↓	▲37.5 ↑	▲32.5 ↑	▲17.9 ↓	▲20.0 ↑	▲17.5 ↑	▲12.5 ↓
	前期比 ▲34.1 ↑	▲28.2 ↑	▲20.5 ↑	7.5 ↓	▲15.0 ↓	▲26.3 ↓	▲27.5 ↑	▲12.5 →	▲12.5 ↓	▲23.1 ↑	▲15.0 ↑	▲7.5 ↑	2.5 ↓
	来期見通し ▲26.8 ↑	▲10.3 ↓	▲17.9 ↑	▲7.5 ↓	▲17.5 ↑	▲15.8 ↓	▲27.5 ↑	▲17.5 ↓	▲20.0 ↑	▲15.4 ↓	▲20.0 ↑	▲17.5 ↑	▲5.0 ↓
サービス業	前年同期比 ▲42.3 ↑	▲19.2 →	▲19.2 ↓	▲34.6 ↑	▲32.0 ↑	▲23.1 ↑	▲15.4 ↑	▲3.8 ↑	3.8 ↓	▲22.2 ↑	▲7.7 ↓	▲15.4 ↑	▲8.0 ↓
	前期比 ▲26.9 ↑	▲11.5 ↓	▲26.9 ↓	▲30.8 ↓	▲32.0 ↑	▲19.2 ↑	▲3.8 ↑	0.0 ↓	▲7.7 ↓	▲29.6 ↑	▲3.8 ↑	3.8 ↓	▲20.0 ↓
	来期見通し ▲46.2 ↑	0.0 ↓	▲26.9 ↑	▲15.4 ↓	▲16.0 ↑	▲15.4 ↓	▲23.1 ↑	▲11.5 ↓	▲15.4 ↑	11.1 ↓	▲19.2 →	▲19.2 ↓	▲32.0 ↓
その他の業	前年同期比 ▲12.5 ↑	0.0 ↑	6.3 ↓	▲20.0 ↑	▲18.8 ↑	▲12.5 ↓	▲18.8 ↑	▲13.3 ↑	▲6.7 ↑	0.0 ↓	▲6.7 ↑	0.0 ↓	▲6.7 ↓
	前期比 ▲18.8 ↑	▲6.3 ↓	▲12.5 ↓	▲13.3 ↑	▲12.5 ↑	▲6.3 ↓	▲12.5 ↑	▲6.7 ↓	▲13.3 ↑	6.7 ↑	13.3 ↓	6.7 ↓	▲20.0 ↓
	来期見通し ▲6.3 ↑	0.0 ↑	6.3 ↓	▲6.7 ↑	0.0 ↓	▲12.5 ↑	▲6.3 ↑	0.0 ↓	▲13.3 ↑	▲6.7 ↑	6.7 ↓	0.0 ↑	6.7 ↓

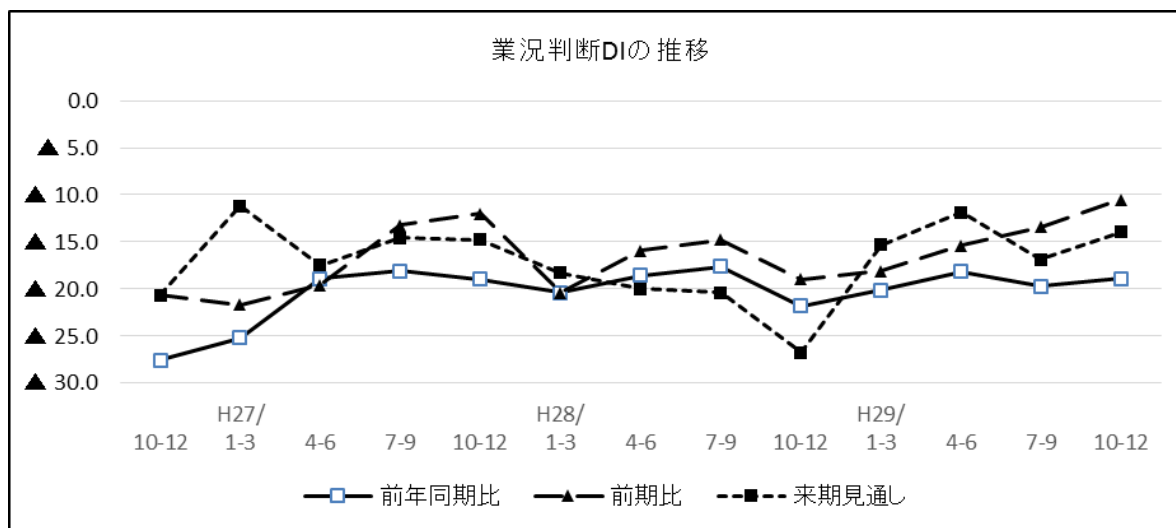
2. 〈企業経営動向〉

(1) 業況判断 業況判断D I（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の業況判断D Iは、▲18.9ポイント。前回調査（▲19.7）より、0.8ポイントマイナス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の業況判断D Iは、▲10.5ポイント。前回調査（▲13.4）より、2.9ポイントマイナス幅が縮小した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の業況判断D Iは、▲14.0ポイント。前回調査（▲16.9）より、2.9ポイントマイナス幅が縮小した。

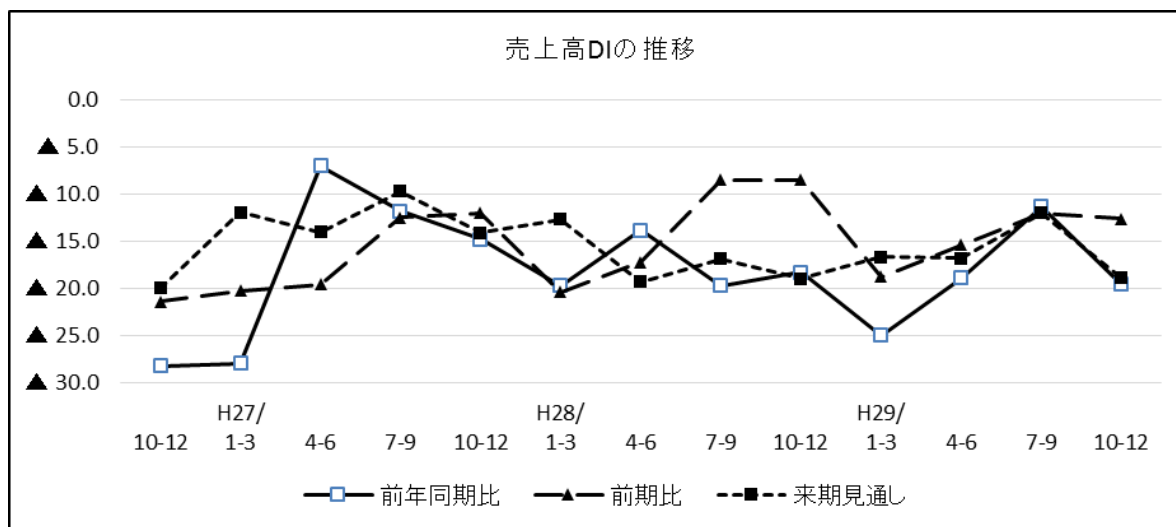


(2) 売上高〔受注額〕 売上高D I（「増加した企業割合」－「減少した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の売上高D Iは、▲19.6ポイント。前回調査（▲11.3）より、8.3ポイントマイナス幅が拡大した。

前期比ベースによる全業種合計の売上高D Iは、▲12.6ポイント。前回調査（▲12.0）より、0.6ポイントマイナス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の売上高D Iは、▲18.9ポイント。前回調査（▲12.0）より、6.9ポイントマイナス幅が拡大した。

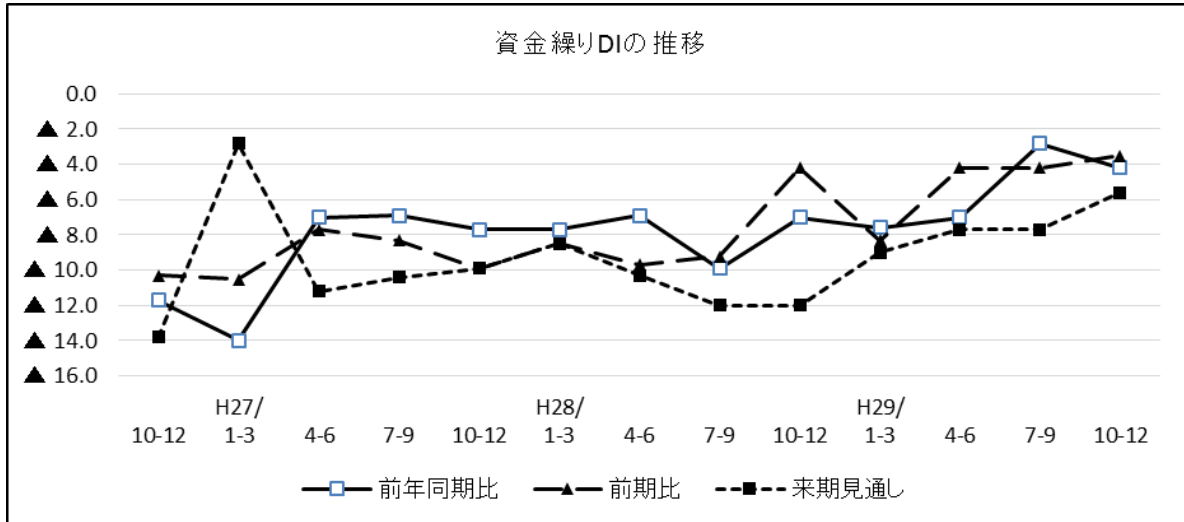


(3) 資金繰り 資金繰りDI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の資金繰りDIは、▲4.2ポイント。前回調査（▲2.8）より1.4ポイントマイナス幅が拡大した。

前期比ベースによる全業種合計の資金繰りDIは、▲3.5ポイント。前回調査（▲4.2）より0.7ポイントマイナス幅が縮小した。

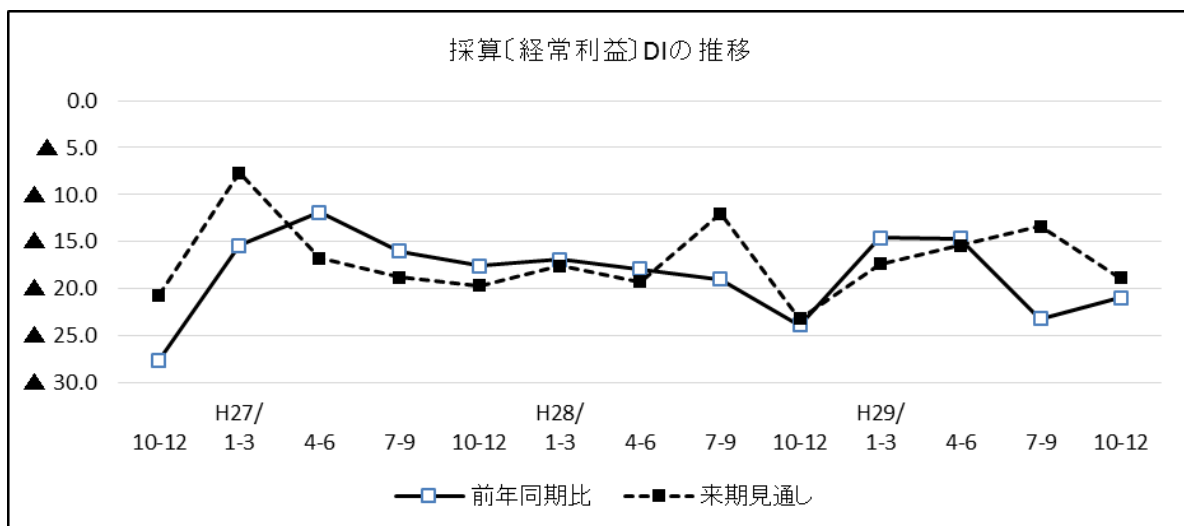
来期（先行き）見通しによる全業種合計の資金繰りDIは▲5.6ポイント。前回調査（▲7.7）より2.1ポイントマイナス幅が縮小した。



(4) 採算〔経常利益〕 採算DI（「好転した企業割合」－「悪化した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の採算DIは、▲21.0ポイント。前回調査（▲23.2）より2.2ポイントマイナス幅が縮小した。

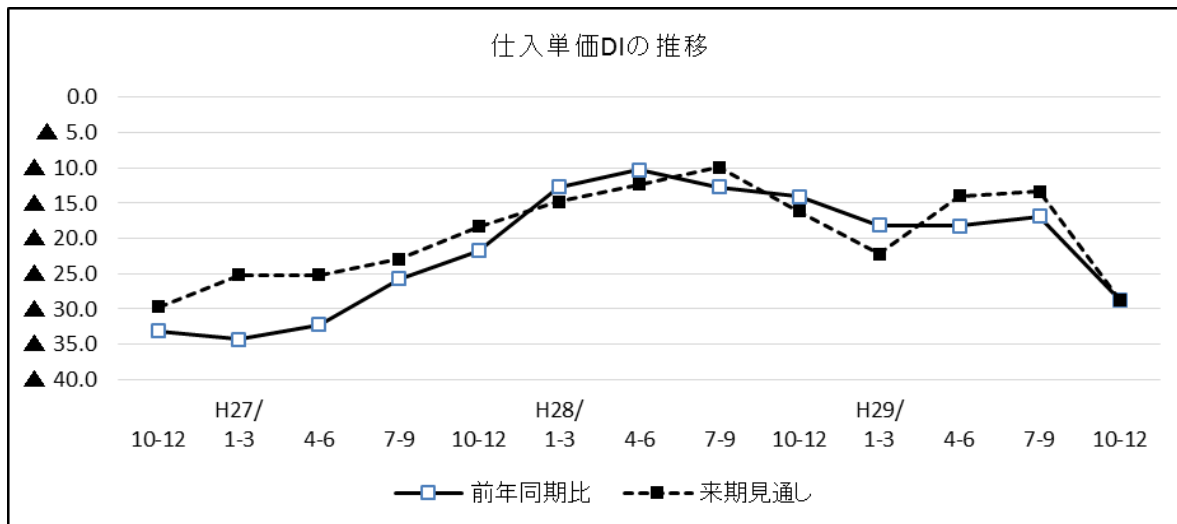
来期（先行き）見通しによる全業種合計の採算DIは、▲18.9ポイント。前回調査（▲13.4）より5.5ポイントマイナス幅が拡大した。



(5) 仕入単価 仕入単価D I（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の仕入単価D Iは、▲28.7ポイント。前回調査（▲16.9）より11.8ポイントマイナス幅が拡大した。

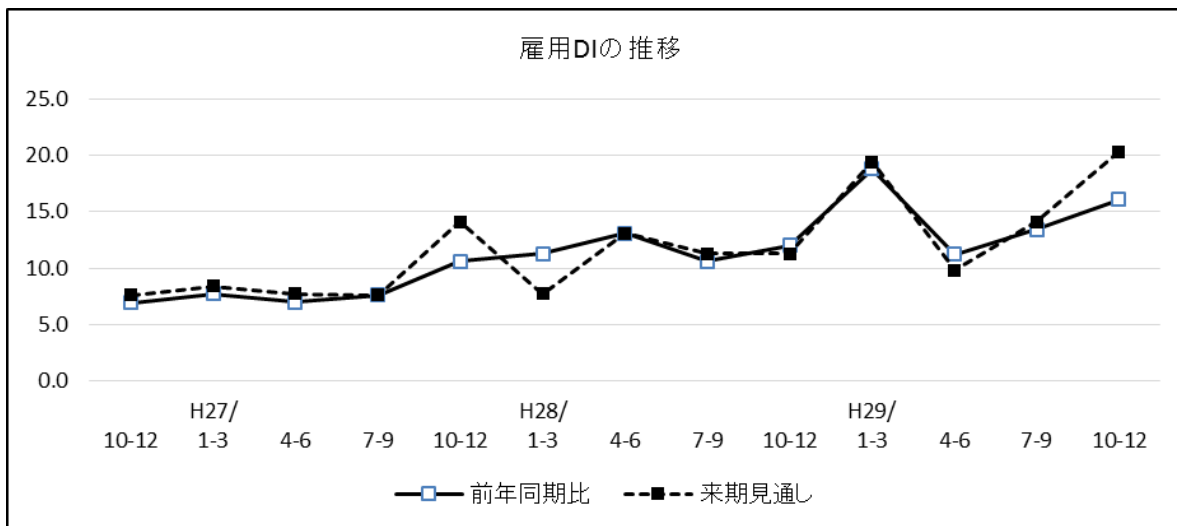
来期（先行き）見通しによる全業種合計の仕入単価D Iは、▲28.7ポイント。前回調査（▲13.4）より15.3ポイントマイナス幅が拡大した。



(6) 雇用 雇用D I（「不足気味の企業割合」－「過剰気味の企業割合」の指数）

前年同期比ベースによる全業種合計の雇用D Iは、16.1ポイント。前回調査（13.4）より、2.7ポイントプラス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計の雇用D Iは、20.3ポイント。前回調査（14.1）より、6.2ポイントプラス幅が拡大した。

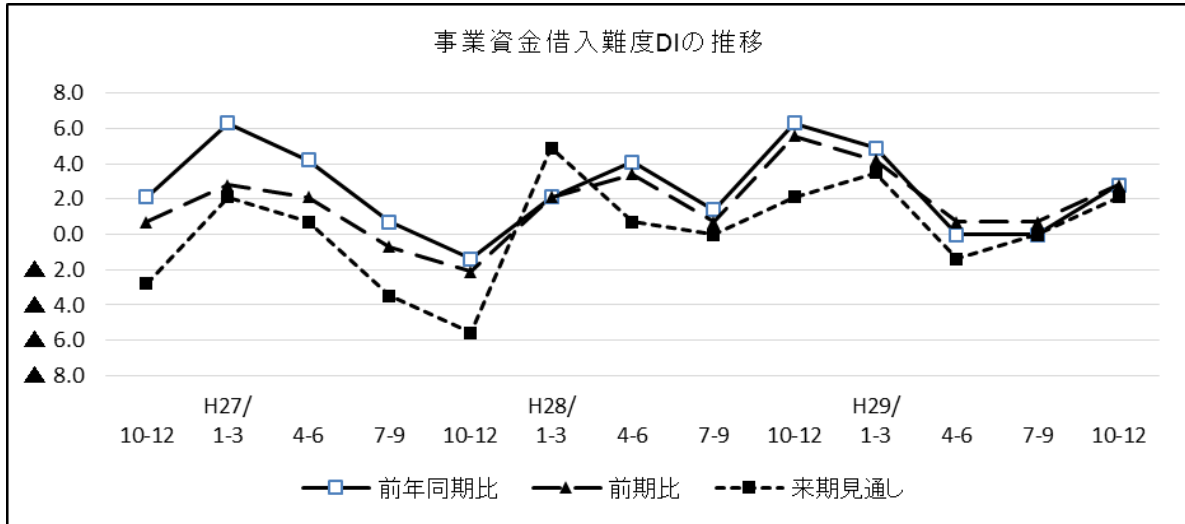


(7) 事業資金借入難度 事業資金借入難度DI（「ゆるやかな企業割合」－「きびしい企業割合」の指数）

前年同期ベースによる全業種合計の事業資金借入難度DIは、2.8ポイント。前回調査（0.0）より2.8ポイントプラス幅が拡大した。

前期比ベースによる全業種合計の事業資金借入難度DIは、2.8ポイント。前回調査（0.7）より2.1ポイントプラス幅が拡大した。

来期（先行き）見通しによる全業種合計事業資金借入難度DIは、2.1ポイント。前回調査（▲0.0）より2.1ポイントプラス幅が拡大した。

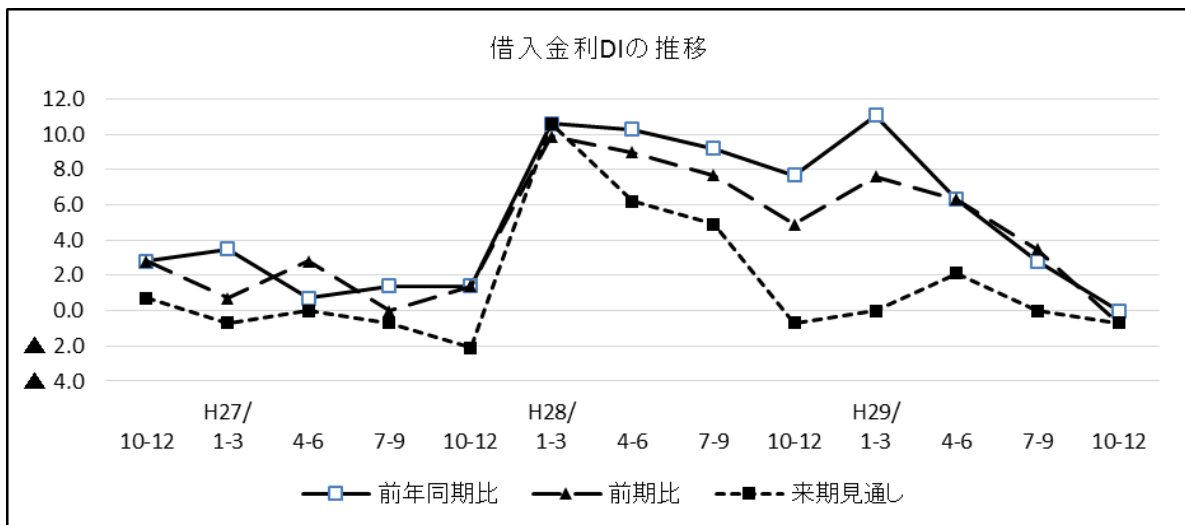


(8) 借入金利 借入金利DI（「下落した企業割合」－「上昇した企業割合」の指数）

前年同期ベースによる全業種合計の借入金利DIは、0.0ポイント。前回調査（2.8）より、2.8ポイントプラス幅が縮小した。

前期比ベースによる全業種合計の借入金利DIは、▲0.7ポイント。前回調査（3.5）より4.2ポイント悪化し、マイナス値に転じた。

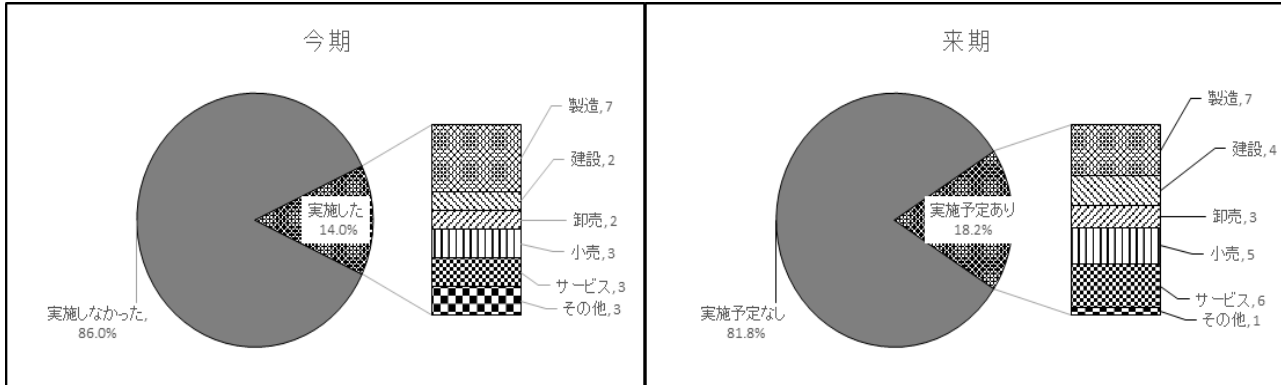
来期（先行き）見通しによる全業種合計の借入金利DIは、▲0.7ポイント。前回調査（0.0）より0.7ポイント悪化し、マイナス値に転じた。



(9) 設備投資

今期に設備投資を実施したと回答した企業は14.0%。前回調査(12.7%)より1.3%増加した。また、来期に設備投資計画があると回答した企業は18.2%。前回調査(13.4%)より4.8%増加した。

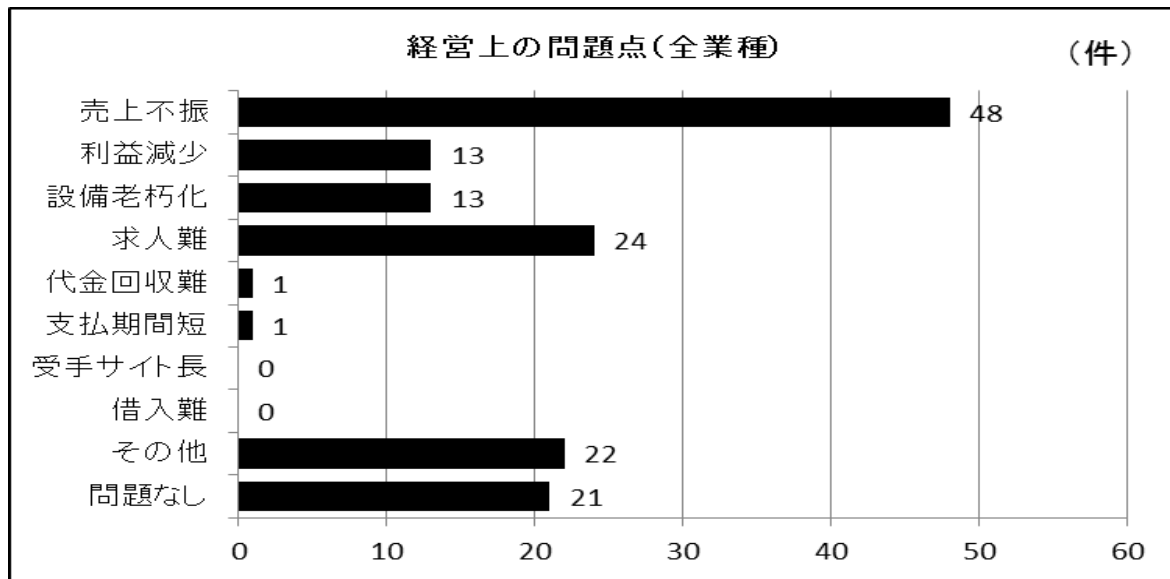
設備投資が多く見られた業種は、今期、来期ともに製造業であり、主に生産設備が挙げられている。



3. <経営上の問題点>

経営上の問題点として、最も多く挙げられているのは「売上不振」で、全業種合計で48件(33.6%)となっている。次いで、「求人難」が24件(16.8%)となっている。

その他として、需要の停滞やニーズ変化への対応などを挙げている。



II. 概況 (業種別) <今期 (平成 29 年 10 月~12 月期) の概要>

1. 各業種のコメント

(1) 製造業

- ◆国内向け売上は、高所作業車が好調であり、海外向けは北米向け新機種が計画通りとやや回復。日本向けの新機種販売に伴い、生産台数は増加する予定。(クレーン)
- ◆発注もある程度回復し、新規引合も増加傾向。大口依頼もあり、キャパオーバーになる見込みのため、早急な存産体制が必要。(機械器具部品)
- ◆雇用に関しては、募集をかけても人材が集まらず、新規採用が難しい。(ガス)
- ◆受注はコンスタントにあるが、製品単価据え置きであることに加え、人件費が高くなっているた

め採算が合わない。(産業機械)

(2) 建設業

- ◆受注が好調だが、技術者が追いつかない。今期は高卒新規社員を2名確保したが、即戦力となる技術者がいない。(総合工事)
- ◆進学や大手企業、官公庁希望者が多く、求人依頼を出しても応募者がいない。(地質調査)
- ◆人手不足であり、技術者の増員が必要と感じている。(建築工事)
- ◆量販店の安売りやネット販売が加速しており、厳しい。LED化、水周りリフォーム、空調入替工事などにより活路を開いている。(電気工事)

(3) 卸売業

- ◆仕入価格の上昇に伴い、粗利益の確保が困難。(電子通信機器)
- ◆個人消費が冷え込んでいるため、取引先の小売店の売上が好転しておらず、納入金額の値下げを要求してくるお客様が増加し、利益の減少が見込まれる。(生活雑貨)
- ◆国内需要や消費マインドが弱いことに加え、供給過多と感ずるため、今後ますますの競争激化が予想される。(中古車)

(4) 小売業

- ◆10月に入り、気温の低下で衣料品が動くも秋雨前線や台風の影響で苦戦。高額品は、一部優良顧客で順調であり、規模は小さいもののインバウンドによる化粧品の売上は好調。(百貨店)
- ◆台風や雨などの天候不順で客足が少なかったが、海外旅行者による来店が増加したこともあり、11月に入り少しずつ回復している。(婦人服)
- ◆求人難が売上増加を阻害している。(電気製品)
- ◆飲食店については、人手不足、人材の確保が困難といった声が増えている。(商店街)
- ◆行政の指導により大型スーパーなどにおける酒類の商品単価が上昇したが、小規模専門店との価格差はいまだ大きく、顧客の戻りがみられない。(酒類)

(5) サービス業

- ◆今期は大型コンベンションやインバウンド観光客の増加により、瀬戸内国際芸術祭の反動のあった前年に比べ、宿泊は順調。酒類の10%以上の仕入価格上昇予定のため、いかに利益を確保すべきかが課題である。(ホテル)
- ◆業界全体で雇用が困難であり、雇用条件・給与を考えていく必要がある。(美容)
- ◆雇用を目指しているが、収益が上がらず対応できない。(映像企画制作)
- ◆製造業界の大きな変化にあわせてニーズも変化している。新しい取組みが技術革新に対しての設備投資が増加していくと予想しているため、技術開発を進める必要がある。(ソフト開発)

(6) その他の業

- ◆求人難による運転手不足に加えてお遍路による貸切需要が激減。また、燃料費の上昇も続いており、利益が減少している(タクシー)
- ◆運転手不足が当面の課題であるが、空港リムジンバスは外国人利用が増加しているため、増便して対応中。軽油についても昨年と比較すると高騰しており、人材不足で貸切事業の受注を抑えているさなか、収支に影響を与えている。(バス)
- ◆燃料代が毎月上昇しており、経費が増加しているが、人件費を削減することができないため会社が吸収するしかない状況。(貨物運送取扱業)

2. 当所管内業種別景況天気図（平成 29 年 10 月～12 月期）

業種別	景気判断			業況判断			売上高			資金繰り			採算		
	H29 10月～12月期		H30 1月 3月期	H29 10月～12月期		H30 1月 3月期	H29 10月～12月期		H30 1月 3月期	H29 10月～12月期		H30 1月 3月期	H29 10月～12月期		H30 1月 3月期
	前年 同月比	前期比	見通し	前年 同月比	前期比	見通し	前年 同月比	前期比	見通し	前年 同月比	前期比	見通し	前年 同月比	見通し	
全業種															
製造業															
建設業															
卸売業															
小売業															
サービス業															
その他の業															

凡例					
		特に好転	好転	まあまあ	悪化
DI 値水準	>= +25.0	+24.9～+10.0	+9.9～-9.9	-10.0～-24.9	<= -25.0

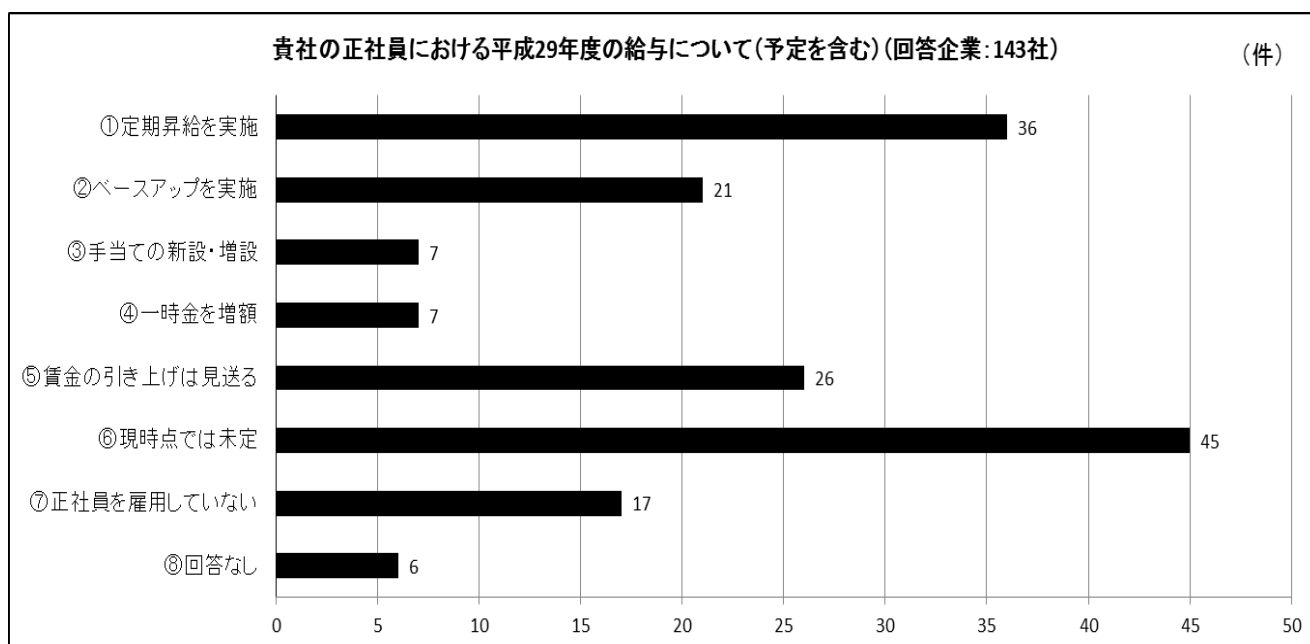
<付帯調査>

労働需給の逼迫から、中小企業においても人材確保のため賃上げをせざるを得ないという声も多い。これに関連して、以下について調査した。

1. 貴社の正社員における平成29年度（平成29年4月～平成30年3月）の給与（予定を含む）について（複数回答可）

最も多く挙げられているのは「現時点では未定」であり、全業種で45件（31.5%）であった。次いで、「定期昇給を実施」が36件（25.2%）であった。

賃金を引き上げると回答した企業からは、人材の確保・定着、モチベーションアップのため、給与規定のためなどが挙げられた。一方、賃金の引き上げを見送るもしくは未定と回答した企業からは、今後の経営状況が不透明である、賃金を引き上げられるほど利益を確保できていないなどが挙げられた。



※定期昇給とは、「年齢や勤続年数に応じて賃金を一定額増やす」こと、ベースアップとは、「基本給を底上げする（賃金水準を引き上げる）」ことを指す。